

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立北中小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 67人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 60／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 46／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【書くこと】 ○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることに課題がある。 2 物語をかくときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する (62.7/73.8) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。 5【春休みの出来事の一部】の中で、…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す (19.4/10.4) ○相手や場面に応じて適切に敬語を使う 7 相手や場面に応じて適切に敬語を使う (46.3/56.0) ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。 8（ア）文の中で漢字を使う（<u>せい造</u>） (56.7/73.4) （イ）文の中で漢字を使う（<u>せつ備</u>） (68.7/82.2) （ウ）文の中で漢字を使う（<u>しょう毒</u>） (59.7/82.2) （オ）文の中で漢字を使う（<u>せつ極的</u>） (37.3/51.4)	無答率が全国より上回っている設問 【読むこと】 ○登場人物の心情について、情景描写を基にとらえる。 4『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文に取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する (1.5/0.3) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。 5【春休みの出来事の一部】の中で、…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す (10.4/3.9) ○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う 6 慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する（心を打たれる） (6.0/1.4) ○相手や場面に応じて適切に敬語を使う 7 相手や場面に応じて適切に敬語を使う (11.9/2.7) ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。 8（ア）文の中で漢字を使う（<u>せい造</u>） (17.9/5.2) （イ）文の中で漢字を使う（<u>せつ備</u>） (19.4/6.3) （ウ）文の中で漢字を使う（<u>しょう毒</u>） (17.9/6.6) （エ）文の中で漢字を使う（<u>かん理</u>） (19.4/7.4) （オ）文の中で漢字を使う（<u>せつ極的</u>） (19.4/7.7)

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○「互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う」ことに課題がある。 1 二【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する (65. 7/77. 5) 【書くこと】 ○「事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする」ことに課題がある。 2 三【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として、適切なものを選択する (55. 2/70. 8)	【読むこと】 ○「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」ことに課題がある。 3 一山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する (38. 8/49. 4) 【書くこと】【読むこと】 ○「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる」ことに課題がある。 3 二【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 最も心がひかれた一文とその理由の文章の に入る内容を書く (35. 8/52. 3)

国語A

○【読むこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】で無答率が高い。特に、「文の中で漢字を使う」ことで全国との差が著しい。

○【話すこと・聞くこと】の正答率は、他の項目に比べると高く全国との差が－1.9%である。

○漢字を書くことについて、書こうとする前向きな諦めない姿勢が見られ、全国に比べ無答率が低い。

国語B

○【話すこと・聞くこと】は他の領域に比べて出来ているが、全国と比べると正答率は低い。

○【書くこと】は、苦手である。

○【読むこと】は、特に苦手で、全国と比べると正答率は低い。

○無答率は、全国に比べて高い傾向がある。

○選択式の設問では無答率は低いが、記述式では高い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数は全体的な分布状況は、ほぼ全国と同じであるが、上位層が少なく、中位層に集中している。

平均正答率（本校 56／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べると低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 41／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
【数と計算】 1（3） 1あたりの大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることが理解できていなくて、無回答も多い。 (55.2/65.3) 無回答（9.0/2.2） 3 十進位取り記数法で表された数の大小についての理解は全国正答率を上回っている。 (79.1/76.4) 【量と測定】 4（1） 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方についての理解は一番正答率の高かった問題である。 (86.6/87.8) 5（1） 180度の角の大きさについて定着しつつあるが、全国正答率からは大きく下回る。 (83.6/94.4) 5（2） 180度や360度を基に、分度器を用いて180度よりも大きい角の大きさを求めることについて誤答が多かった。分度器の示した数から回答したことでの誤答となっている。授業の中で実体験を取り入れたり、操作させたりする活動が必要。 (44.8/58.5)	【図形】 6 示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することが課題である。図形に対しての苦手意識もある。 (62.7/73.5) 無回答（7.5/3.3） 7（1） 円周率の意味について理解できていない。一番正答率の低かった問題である。円周の長さや円の面積を求める公式との混乱が見受けられる。 (29.9/41.6) 無回答（9.0/3.2） 【数量関係】 8 百分率を求める問題が理解できていなく、誤答が多い。式を逆に考えたための誤答となった。 (34.3/52.9) 無回答（10.4/4.6） 9 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることが課題。示された事柄を読み取ることが課題となった。与えられた情報を消去していき、答えを導いていく力が必要。→文章力、読み取りの力 (46.3/63.6) 無回答（14.9/4.6）

算数B	特 徴 が み ら れ た 設 問	
【図形】 1－(2) 図形の名前は書けているが、一つの角の大きさを理解出来ていないので、2つの図形が入り交じった形の時に、正確に答えることが出来ない。 (34.3/48.2)	【数と計算】 4－(2) 問題文章を途中までしか理解出来ていない。また、例を活用出来ていない→横に並んでいる5つの数の和はわかるが、真ん中の数の何倍になっているかは答えられていない児童が10.4(4.8)%いた。 (37.3/59.5)	【数と計算・数量関係】 4－(1) 計算のきまりの分配法則が理解出来ていない児童が38.3%いる。 (40.3/62.7)
	【数と計算】 5－(2) 1番や無解答の児童の割合が高く、最終問題ということもあり、時間が足りない児童が多かった可能性がある。 (55.2/66.5)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	58	64	◇	6
算数の勉強は大切だと思いますか	89.9	92.1		2.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	76.6	83.4	◇	6.6
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか	69.5	74.3		4.8
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	69.6	78.4	◇	8.8
算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか	65.2	64.4		0.8
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか	88.4	90.3		1.9
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考えますか	79.7	78.5		1.2
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	78.2	80.4		2.2
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか	60.8	85.8	○	25

算数A

○平均正答数は全国と比べ7.5であるが、特に、数量関係は－10.2、図形は－8.1と全国より大きく下回り、課題がある。

算数B

○図形の特性（1点に集まった角の大きさの和が360°）の理解が低い。全国に比べ－13.9。
 ○示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を式に表すことがにがて。全国に比べて－20ポイントを越えている。

学習状況調査より

○算数は大切だと思っているが、苦手意識が見られる。
 ○算数のノートを書くことについては、児童の意識と学校側（教師側）の認識にずれがあるように思う。
 日々の授業の中でのノート点検は行っており、わかりやすくノートをまとめている児童は多い。ノートを書くことと内容の理解とが繋がっていないのではないかと考えられる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

「知識に関する問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 70／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）

「活用に関する問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 53／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【生命】 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。（64.2/79.4）	

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
<u>全国の正答率よりも上回っているもの</u> 1（1）野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。 ◎安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる。（86.6/82.1） 1（4）人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ。 ◎人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる。（58.2/56.6） 2（4）上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ。 ◎より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係づけながら、分析して考察できる。（61.2/59.8） 3（2）回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に研流計の針の向きと目盛りを選ぶ。 ◎電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。（49.3/47.7）	<u>下回っているもの</u> 1（2）鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ。 ○調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できないことが課題である。（64.2/74.7） 2（2）流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想に基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ。 ○土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通すことが苦手である。（44.8/55.4） 4（4）食塩水を熱した時の食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く。 ○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善しその内容を記述することが難しい児童が多い。（22.4/35.9）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	78.3	83.5	◇	5.2
理科の勉強は大切だと思いますか	72.4	85.4	○	13
理科の授業の内容はよく分かりますか	88.4	89.4		1
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	82.6	87		4.4
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.2	64.7		0.5
理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか	71	72.9		1.9
将来、理科や科学技術に関連する職業に就きたいと思いますか	27.5	26.1		1.4
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	47.8	54.5	◇	7.7
観察や実験を行うのは好きですか	86.9	89.8		1.8
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	78.2	81.8		3.6

○【知識】科学的な言葉や概念を理解することが特に苦手である。一回覚えたことを時間が経つと忘れてしまい、定着が難しい。

○【活用】実験結果から考察をし、その内容を記述することが苦手な児童が多く、全国に比べれば正答率は低い。

○【活用】考察する際に、複数の情報を関係づけながら分析して考察する問題は正答率が高いが、問題に対応した視点で分析する問題に対しての正答率は低い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
自己分析・社会性 (1) ~ (6)	・自尊心が低い。 ・自分のいいところに気付いていない。 ・自覚できる経験がない。 ・規範意識が薄く、自分の思いを通そうとする。	○自分にはよいところがある。 〈71/84〉 ◇将来の夢や目標を持っていますか。 〈75.4/85.1〉 ○学校の決まりを守っていますか。 〈69.5/89.5〉
家庭学習の様子 (7) ~ (26)	・生活のリズム整いにくい。 ・時間管理が難しい。 ・家での学習環境が整っていない。 ・学習の必要性を感じていない。 ・宿題以外の家庭環境・読書の習慣がついていない。 ・家でテレビやゲームをして過ごすことが多い。 ・保護者の協力が得られにくい。 ・地域や大人との関わりが少ない。 ・社会の出来事に興味や関心が薄い。	◇毎日同じくらいの時間に寝ていますか。 〈68.1/77.1〉 ◇家で、自分で計画を立てて勉強していますか。 〈59.4/67.6〉 ◇家で、学校の宿題をしていますか。 〈91.3/97.1〉 ○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。 〈43.4/62.6〉 ○家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。 〈59.4/69.9〉 ◇学校の授業以外にどのくらい読書をしますか。 〈13/19.3〉 ○放課後に何をして過ごすことが多いですか。 ・家で勉強や読書をしている 〈36.2/64.1〉 ・友だちと遊んでいる 〈89.9/74.5〉 ○週末に何をして過ごすことが多いですか。 ・家で勉強や読書をしている 〈33.3/58.1〉 ・家でテレビ、ビデオ、ゲーム、インターネットをしている 〈94.2/82.4〉 ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 〈36.2/51.4〉 ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。 〈33.3/44.2〉 ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。〈44.9/62.6〉 ○地域の大人の人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。 〈28.9/39.4〉 ○新聞を読んでいますか。 〈4.3/14.6〉 ○テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。〈72.4/83.5〉

学校での学習の様子 (27) ~ (57)	・算数に苦手意識がある児童が多い。 ・集中して聞くことが苦手で、理解しづらい。 ・じっくりと考えることが苦手な児童が多い。 ・黒板を写すことに精いっぱいになっている。 ・理科を難しいと考えている児童が多い。 ・理科の学習に必要性を感じていない。 ・人前で説明や発表をするのが苦手。 ・授業の振り返り時間が取りにくい。 ・最後まであきらめずに問題を解こうとする児童が少ない。 ・理科の授業を自分の生活に結び付けにくい。 ・社会の出来事に興味を持ち、分かったと感じる経験が少ない。 ・自力解決力が弱い。 ・学習に対して受け身である。 ・自分で文章を考えることが難しい。 ・発表をする自信がない。	◇算数の勉強は好きですか。 〈58/64〉 ◇算数の授業の内容はよくわかりますか。 〈76.8/83.4〉 ◇算数の問題の解き方がわからないとき、あきらめずに色々な方法を考えますか。 〈69.6/78.4〉 ○算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか。 〈85.8/60.8〉 ◇理科の勉強は好きですか。 〈83.5/78.3〉 ○理科の勉強は大切だと思いますか。 〈85.4/72.4〉 ◇理科の授業で自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしていますか。 〈47.8/54.5〉 ○理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。 〈55/68.1〉 ◇今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 回答1のみで比較 〈71/77.3〉 ○5年生の時、理科の授業を受けたあとに、習ったことに関わることでもっと知りたいことが出てきましたか。 〈63.8/75.1〉 ○今、社会のことがら自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか。 〈71/82〉 ◇5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。 〈69.5/76.7〉 ○5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。 〈40.6/61〉
問題について	・Aと理科の問題は解こうとがんばろうとした分、時間が足りないと感じる児童が多かった。 ・Bの問題は解けないとあきらめてしまい、時間が余ったと感じたのではないか。	調査問題の解答時間は十分でしたか。 〈国語A〉 〈55.1/80〉 〈国語B〉 〈65.2/74.7〉 〈算数A〉 〈72.4/80.3〉 〈算数B〉 〈66.7/66〉 〈理科〉 〈89.8/90.1〉

本校の取組

◎これまでの取組み

【自ら考え共に学び合う体験的な活動（授業）を通して、コミュニケーション豊かにつながる子どもの育成をめざすための取組み】

（１）言語活動・コミュニケーション活動の充実

- ① 全ての授業で「聴く」「表現する」活動を工夫し、相手の思いや考えを能動的に理解しようとする、積極的に自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとする態度を育む。
 - ・読み聴かせ活動 ・聴き方「あいうえお」 ・ペア学習及びグループワーク
 - ・話し方「かきくけこ」 ・伝わりやすい書き方ワーク ・プレゼンテーション 等
- ② 人と関わる楽しさを感じることや、他者との出会いを積極的に取り入れる。
 - ・交流活動 ・人と関わる体験的な学び ・まなびんぐスクール 等

（２）体験的な学びを通して、信頼感や安心感であふれる集団づくり

- ① 目標に向かって集団活動を企画・運営する。
 - ・共有できるルールづくり ・チームとしての活動づくり 等
- ② 自分を振り返る機会を習慣づける。
 - ・振り返りジャーナルや日記 等
- ③ 本音を語り合え、心情を共有する関係づくり。
 - ・相互に伝え合い聴き合うオープンクエスチョンワーク 等
- ④ 人間関係の実態把握を進める。
 - ・集団生活のアンケート調査と内面把握の個別の相談活動

（３）自力解決の力を育てる生活や授業での学び

- ① 自己選択と自己決定を積み重ねるしかけを組み込む。
- ② 基礎基本の習熟を図ると共に、活用力を高める。
- ③ トラブルの解決のために、全学年がセカンドステップに取り組む。

【基礎基本の定着のための取組み】

- （１）学力向上の一環として、基礎・基本の習熟と活用能力を高めることを目標に、習熟度別指導を中心に取り組む。
- （２）朝学習を充実させ、漢字や計算の力をつける。
- （３）研究授業や校内研修を計画的に行い、積極的な意見交換により個々の授業力向上をめざす。

◎これからの取組み

【基礎基本の定着】

- （１）力だめしプリント等を有効活用し、読み書き計算の習得に力を入れる。
- （２）算数の定期的な確認テストを行う。
- （３）反復学習による基礎基本の習熟に力を入れる。
- （４）図書室を整備し、読書活動を充実させていく。
- （５）休憩時間や放課後の時間で個別の補充学習を充実させていく。

【授業改善による授業内容の向上】

- （１）授業力向上のため、研究部を中心として授業改善に取り組む。
- （２）授業改善専任の教員を配置し、教員の授業力向上を行う。
- （３）研究授業及び研究討議の内容を充実させ、授業力の向上を目指す。
- （４）少人数・習熟度別学習を効果的に利用し学力アップにつなげていく。
- （５）学習支援サポーターを活用し、個別の支援を充実する。

【家庭との連携】

- （１）朝食の重要性、テレビ・ゲームの悪影響を訴え、家庭との連携を深める。
- （２）北中ぱっちりウィークを活用し、家庭での学習状況を充実させ、保護者の意識向上に努める。
- （３）学校だより・学年だより・学校ホームページ等を通じて積極的な情報発信を行う。

【落ち着いた学習環境】

- (1) セカンドステップの取組みを続け、感情のコントロールを身につけさせる。
- (2) ふわふわ言葉の取組みを続け、あたたかく落ち着いた学習環境を構築する。
- (3) 教室の掲示物等はユニバーサルデザインを意識し、学習環境を整える。
- (4) スクールカウンセラー・SSW サポーターを活用し、心のケアに努める。
- (5) 三中校区で実践している立腰を授業の始めに行い、学習に前向きな姿勢をつくる。